

科学研究費助成事業

「境界線の想像力:ドストエフスキー文学の世界性とその表象化をめぐる超域的研究」

Kaken "Imagination of the Border; Transdisciplinary Research on the 'Worldliness' of F. M. Dostoevsky's Literature and its Representation"

## Dostoevsky Symposium

ドストエフスキーシンポジウム

## 「ドストエフスキーの小宇宙」

日時 2025年  
3月15日(土)  
14:00~17:00参加無料  
要申込

開催方法 Zoom ウェビナー

総合司会 梅垣 昌子 (UMEGAKI Masako 名古屋外国語大学)

【プログラム】

## 開会の挨拶

亀山 郁夫 (KAMEYAMA Ikuo 名古屋外国語大学)

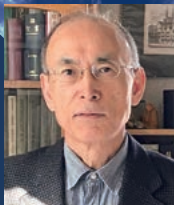
## 講演

「ドストエフスキーの小宇宙:  
『永遠の夫』たちの世界」

望月 哲男 (MOCHIZUKI Tetsuo 北海道大学名誉教授)

## 研究発表

- ◆「ゴーゴリ、ドストエフスキー、二葉亭における  
(声)のテクノロジー」  
番場 俊 (BAMBA Satoshi 新潟大学)
- ◆「シベリア流刑後の諸作品と『罪と罰』」  
木寺 律子 (KIDERA Ritsuko 京都産業大学)
- ◆「ドストエフスキーの現代的効力:  
受容の一例としての演劇『正三角関係』」  
川崎 智代 (KAWASAKI Chiyo 東京大学大学院)
- ◆「ドストエフスキーの笑いについて—  
論集"Funny Dostoevsky"(2024)の紹介を中心に」  
永田 怜絵 (NAGATA Satoe 東京大学大学院)



講演者紹介

望月 哲男

MOCHIZUKI Tetsuo

1951年生まれ。日本のロシア文学者。東京大学大学院博士課程単位取得退学。現北海道大学名誉教授。また、国際ドストエフスキー学会 (IDS) 副会長を歴任、現在は、その理事の任にある。ドストエフスキーを中心とする近現代ロシア文学・文化論を専門とし、日、英、露、各言語による多数の著作論文があるが、わけでも精緻な読解による、物語の構造分析とその解釈、歴史的考証に優れ、世界の研究者から注目を集める。近年は、翻訳活動にも精力的に取り組み、ドストエフスキー「死の家の記録」「白痴」、トルストイ「アンナ・カレーニナ」「戦争と平和」などの19世紀古典ほか、「現代ロシア文学のモンスター」と表されるウラジーミル・ソローキンの先駆的な紹介者として知られる。また、ハフチン「ドストエフスキーの詩学」は、日本の外国文学者にとってバイブル的な意味を帯びつつある。なお、「アンナ・カレーニナ」の翻訳で、2010年のロシア文学作品優秀翻訳コンクール(散文部門)で最優秀翻訳賞に選出され、2021年には、長年にわたるドストエフスキー学への貢献により、「ドストエフスキーの星」勲章を授与された。

応募締切 2025年3月13日(木) 17:00まで

## 申込方法

ウェビナーは事前登録制となっております。日本ドストエフスキー協会 (DSJ) のホームページにアクセスし、専用リンクから事前登録をお願いいたします。

ご登録後、ウェビナーへの参加方法をお知らせするメールが届きます。



問合せ先 日本ドストエフスキー協会

mail: dsjn\_gg@nufs.ac.jp

Мирпокоcosмос Ф. М. Достоевского